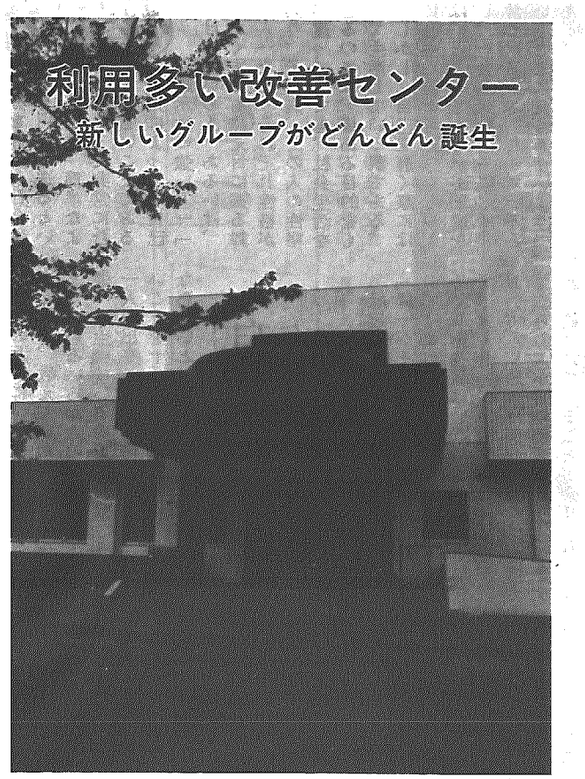
利用多い改善センター
新しいグループがどんどん誕生



昭和五十八年六月に、農村環境改善センターがオープンしてから二十カ月余り、この改善センターが今、どのように利用されているのでしょうか。村経済課の調べでは、昭和五十八年度の利用者は、七八七回二六、一八九人、五十九年度は、十二月末現在で八一七回三二、八五〇人で予想よりかなり多くの人たちが利用しています。

特に、センターが設置されている沢海地区の利用が多く地域住民の文化・スポーツの寄りどころとして、新しい活動が次々に芽ばえています。

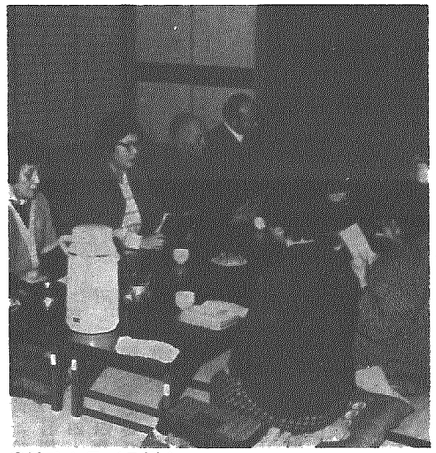
沢海地区は、畑作地帯で年中猫の手も借りたい程の忙しさで、文化やスポーツ活動に比較的縁遠い地区でした。

センターの建設前は、婦人会を中心とした民踊、生花、書道などを愛好するグループが五団体しかなかったのが、センターの建設によって新しく卓球、ゲートボール、ワンバウンドバレーボール、カラオケ、茶道、盆栽、将棋、木遣り、御詠歌などのクラブや愛好会が一五団体も誕生し、老若男女を問わず、昼夜毎日利用されています。

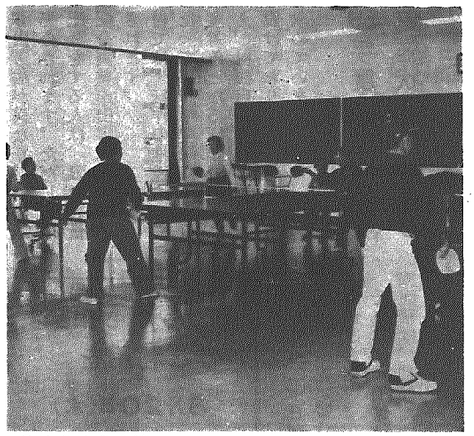
一地区でこれだけのグループや団体が活動しているのはめずらしく、農村環境改善センターの名にふさわしい活動と地域コミュニティが培われています。

また、センターの利用は、沢海地区以外の利用者も多くワンバウンドバレーボールは小杉地区の婦人が毎週定期的に利用。ゲートボールに至っては、地元老人たちがお金を出し合ってマットを買い、室内コートを整備したところから、村内各地のお年寄りたちがセンターにきて、地元お年寄りたちと交流試合をやっています。

しかしながらセンターの調理室、浴室、児童会室等をはじめ、農業施設としての活用が今少しで、今後の活用に期待されるところです。



◎詩吟クラブの例会
大半のクラブの講師は、地元の人たちが指導にあったている。書道、民踊、生花は、他市町村からの講師。



◎めきめき上達
今までラケットを手にしたことがなかった人でも今は、すごいスマッシュができるほどに上達。二つの卓球クラブが誕生している。

お知らせ

文化講演会

演題　これからの政局と経済
講師　長谷川　肇（元NHKアナウンサー）
とき　3月19日（火）午後1時20分から
ところ　横越村商工会館
※入場無料です。多数の方の聴講を。
主催　横越村商工会
協賛　新栄信用組合
横越支店友の会

亀田駅前自転車置場の使用申込み受付

◎申込期間
3月12日から22日まで
◎申し込み先
横越村役場経済課
・登録台数　20台位
・3月下旬に抽選予定
・登録有効期間
60年4月1日～61年3月31日
・手数料　一件　一〇〇円

所得税の申告と納税はお済みでしょうか

昭和五十九年分の所得税の申告と納税はもうお済みでしょうか。期限はどちらも三月十五日までです。

申告と納税は、必ず期限内に済ませるようにしましょう。

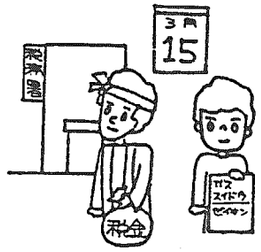
確定申告をしなければならない人が三月十五日までに申告をしなかったり、間違った申告をしたりしますと、後で不足額の一〇%又は五%の加算税が課され、そのほかに延滞税も納めなければなりません。

また、不正な行為があったような場合には、普通より重い加算税が課されます。

申告書は「申告書の書きかた」や「所得税の確定申告の手引き」などを参考にして、ご自分でお書きください。

確定申告についてのご相談は、お気軽に税務署・税務相談室へお尋ねください。

この期間中は、県市町村や日本税務協会及び税理士会でも相談に応じています。



交通事故相談所のご利用を！

毎日どこかで悲惨な交通事故が発生しています。これは決して他人事ではありません

不幸にして交通事故にあわれてお困りの方は県の交通事故相談所に相談してください。

相談所では
・損害賠償請求はどうすればよいか。
・損害賠償額はどのように算定するのか。
・示談の進め方は。
・自動車損害賠償保険金の請求は。
・治療と労災保険の利用は。

などについて専門の相談員が相談に応じていますのでお気軽に相談ください。

～相談は無料です～

・専門の相談員が相談に応じています。
・弁護士による相談も受けられます。（但し、常設相談所において毎週土曜日）
・電話や郵便による相談にも応じます。
・本人のほか家族、雇主、知人など、どなたが相談にみえても結構です。

～相談内容については秘密を厳守します～

相談所のご案内

◎常設相談所
・新潟交通事故相談所
〒951
新潟市一番堀通町三九二四
県庁第一分館　一階
電話(〇二五二)㉓五五一一番

※相談時間
平日　九時～十六時
土曜日　九時～十二時
（日曜・祝日は休みです）

◎移動相談
遠隔地等で常設相談所に行かれない方は左記のお近くの移動相談所をご利用ください。

昭和60年度移動相談所実施計画表

相談所	開設場所	開設 月	週	曜
新津市	市役所	毎月	2	金
水原町	役場	毎月	2	水

□歳時期□「卒業」

卒業式と言えば、将来への希望に胸ふくらませて晴れがましいものです。

しかし、なかには受験が目前に控えていたり、この日が受験浪人、就職浪人への〝門出〟となってしまって、さえない気分の学生も少なくないようです。

もう一つ卒業式で思い出すのが「仰げば尊し」と「螢の光」の歌です。

この歌を歌うかどうかは、各教育委員会、または各学校で決めることになっていますが、本村の場合、小学校は「卒業式のうた」、中学校は「巣立ちのうた」が歌われているようです。

「螢の光」の原曲はスコットランド民踊といわれ、日本で歌詞が付けられ、明治十四年に文部省編集の小学唱歌集に収められました。作詞者はいろいろな説があってはっきりしませんが、「螢の光、窓の雪」という歌詞は中国の故事からとったものです。

中国の晋の時代。車胤（しゃいん）という人は、家が貧しく灯油も買えないので、ホタルの光で勉強し、また、孫康（そんこう）という人は雪明かりで勉強して立身出世した――という話しが元になっているのです。「螢の光」とは螢光灯のことだと思っている現代っ子には通用しない話しかもしれません。

それにしても、そんなに明るいホタルがいたのかと思いますが、中国南部には体長二㌢を超え、強く光るマトボタルというのがいたようです。

おめでたびと

（1月届）

親名	地区	新生児
神田由季枝	横越上	和博
立川　亮	裕司	二村木中
藤田　勝正	和夫	川根谷内
市野瀬　瞳	儀行	沢海上
馬場　道樹	幸栄	小杉中
石倉みゆき	孝司	駒　込
小田優香里	悦雄	小杉上
高橋　知里	正二	川根谷内
大倉　一義	一之	横越上
伊藤　舞	吉男	沢海中

おめでたびと

（1月届）

新郎新婦	地区
佐藤　正勝	横越中
「太田」千恵美	亀田町

おくやみ

（1月届）

故人	年令	地区
茅原　ウエ	82	横越下
増渕　一平	57	横越中
小武　タカ	72	駒　込
川口　賢龍	92	沢海上
安彦　保次	81	沢海上
佐藤　サカ	74	横越中
中沢ナカノ	77	沢海下
熊倉　ミヨ	78	小杉下
石川　チヨ	73	横越下